

消化器の病気

健康づくり⑧ 正しく知ろう 病気の知識

人間活動のエネルギーとなる食事。私たちが食べた物は、口から肛門まで続く1本の長い消化管を通りながら消化、吸収されています。日々を健康に過ごすためには、3食バランスよく摂取し、腹八分目を心掛けることが大切です。最終回となる第8回「消化器の病気」では、機能性ディスペプシア、大腸がん、逆流性食道炎についてそれぞれ専門の医師に聞きました。

Q&A ◆専門の医師がお答えします◆

京都博愛会病院

肛門出血と大腸がん



外科部長
大恵 匡俊 氏

います。治療は病変が粘膜層にとどまる早い段階で見えれば大腸内視鏡で切除できることが多く、5年生存率は94%です。より深く進んでいる場合にはリンパ節転移の可能性があるためほとんどの症例で外科的手術が必要となります。手術後の転移や再発は3年以内に起こることが多く、術後5年間再発や転移がなければほぼ完治したと考えられます。

Q 早期発見について。
A 予防としては食物繊維

食物繊維多く取って予防を

Q 肛門出血について。
A 原因は大腸がんのほか痔核、裂孔、感染性胃腸炎、大腸憩室炎、大腸炎などが考えられます。大腸がんの場合、粘膜にできた病変が便通で傷ついたり、潰瘍化したりして出血しほほ痛みはありますが、初期症状はほほ痛、排便時に痔核、裂孔、感染性胃腸炎、大腸憩室炎、大腸炎などが考えられます。大腸がんの場合、粘膜にできた病変が便通で傷ついたり、潰瘍化したりして出血しほほ痛みはありますが、初期症状はほほ痛、排便時に痔核、裂孔、感染性胃腸炎、大腸憩室炎、大腸炎などが考えられます。大腸がんの場合、粘膜にできた病変が便通で傷ついたり、潰瘍化したりして出血しほほ痛みはありますが、初期症状はほほ痛、排便時に痔核、裂孔、感染性胃腸炎、大腸憩室炎、大腸炎などが考えられます。

機能性ディスペプシア



院長
松井 亮好 氏

ストレスなど原因さまざま

Q 機能性ディスペプシアとは。
A みぞおちの痛みや食後の胃もたれといった症状が慢性的に続くにもかかわらず、内視鏡などの検査でははっきりした異常がない状態です。重篤化したり、直接命に関わる病気ではありませんが、本人にとってはQOL(生活の質)が下がり、悩まれている方も多くいます。日本ではこのように検査を行いますが、気になる症状があればかかりつけ医に相談し、根気よく治していきます。

逆流性食道炎



副院長
宮嶋 敬 氏

高脂肪食を控え腹八分目で

Q 原因と症状は。
A 逆流性食道炎と胃酸の分泌量が多くなることで罹患が増えることが多くあります。症状はむかむかするといった胸焼け、生飲暴食、肥満、食後や胃酸が上がってくる、胸が重くなる、若い世代でも発症します。高齢者でも発症します。高脂肪食を控え、腹八分目を心がけてください。

西京病院

宇治武田病院